

## 地元での活動報告と今後の取り組み

笹木智恵子（特定非営利活動法人ウエットランド中池見）

### 北陸新幹線計画の現況

中池見湿地付近環境事後調査検討委員会の提言により鉄道・運輸機構は中池見湿地周辺の計画ルートを変更、今年4月28日付けで改めて国土交通省に申請。5月8日に国交大臣からの着工認可がおりた。機構はこれを受けて作業を本格化させ、ルートの線引き、中心線測量と地質調査に着手した。私たちにはまったく情報が入らないため、現地へこまめに出かけ、作業状況を把握するしかないのが現状である。現地での杭打ち状況を見て、改変範囲の広さに驚きを隠せなかった。中心線のみ1本の線で地図上に表されているのに対し、現地で工事予定範囲を示す杭で確認した現実との開きである。これでも実際、工事が始まるともっと広い範囲に改変、破壊が起こるであろうと推測できるからである。現に工事が先行している工区からのトンネル掘削排土搬出のダンプがひきも切らない国道476号。これだけのダンプが出入りする工事ヤード設置が中池見湿地への入口、樫曲・細谷と反対側の大蔵地区に予定されている。工事仕様によると、その予定規模は下図のようになっている。

トンネル坑口部が約25×25m、坑口部斜面防護工約50×50m、坑口部改変約25×25m、路盤幅25m、橋梁幅約12m、それに7m幅の工事用道路に前述の工事ヤード（坑外設備）。さらに所によっては道

路付け替えや水路工事なども実施される。これらを中心線のみ記載の中池見周辺の地図上に描き加えてみるとその改変規模が想像できるであろう。

### 今後の取り組み

ルートが変更されたといえども、中池見湿地の水環境に一番大きな影響を持つ深山に掘られるトンネルである。認可されたルートそのものは、アセスメント時のものと大差なく、敷設の位置、標高など縦移動したにすぎない。検討委員会に示された水文関連の資料だけで本当に影響ないと言えるのか？地質と水環境を関連づけて読み解ける専門家が検討委にいなかったことである。すでに機構の公開資料を見た研究者からいくつかの疑問が聞こえてきている。深山をフィールドとしている私たち素人でも、現地の状況を知っている者にとっては首を傾げたくなるような説明である。地元で言う「水みち」の複雑な中池見周辺である。トンネルは掘ってみなければ判らないという代物。私たちが心配するのは、トンネル建設による地下水質（pH、水温、汚染など）と水量の変化。世界屈指といわれる泥炭層への影響だ。見えない所にある物だけに、その保護のためにと神経質になっている。工事による改変状況の監視とともにモニタリング調査を強化するつもりである。

注 鉄道・運輸機構＝鉄道建設・運輸施設整備支援機構

